

長尾クリニックを承継

500人に在宅医療提供

在宅医療に積極的な医師・医療機関は多いが、兵庫県尼崎市を拠点に活動していた長尾和宏医師はその中でも知名度の高い1人といえるだろう。その長尾氏が医療現場をリタイアした2022年以降、院長としてクリニックの舵取りをしているのが豊國剛大医師だ。現在力を入れていることについてインタビューした。

医療法人社団西日本平郁会

3法人が統合し診療所名も変更

クリニックの歴史について教えてください
豊國 1995年に長尾和宏先生が開業しました。私は2016年に入職しています。22年に長尾先生が65歳になったのを機にリタイアしたため、私が院長



三和クリニック 豊國剛大院長

本平郁会となりました。クリニックの名称も「三和クリニック」に変更しましたが、スタッフは長尾クリニック時代から変わっていません。
——現在の在宅患者数は
豊國 高齢者住宅の入居者が約220人、そ

「ホスピス・在宅ケア大会」大会長も

れ以外の在宅高齢者が約2800人です。年間で120〜160件程の看取りを行っています。
——ほかの在宅医療ク

リニックと比較して特徴や強みは
豊國 医療と介護の連携がスムーズな点が挙げられます。クリニックの中に居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションが併設されています。訪問看護ステーションでは訪問リハビリテーションも提

継いで新たに始めたことを入れていくとありますか
豊國 自前でケアマネを抱えています。より多くの人たちに在宅医療を届けるには外部のケアマネや訪問看護師との連携が重要と考え、パイプ作りに力を入れています。

10月11・12日 フォーラム開催

——大阪で開催される在宅ケアに関するイベントの大会長を務めるそうですか

豊國 地域へ在宅医療を普及させる活動の一環として、10月11・12日の2日間、新大阪駅

者住宅に対しても、3〜4カ月に1回程度、スタッフにターミナルケアなどのレクチャーをしています。要望があれば、現在訪問していない高齢者住宅で行うことも検討していきます。

前の大阪コロナホテルで開催される「第32回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会inなにわ」の大会長を務めます。「在宅医療の今までこれから」終末期のリハビリはどうあるべきか」「世界から在宅ホスピスを学ぶ」などさまざまな講演・シンポジウムなどを開催します。

事前参加申し込みは9月15日まで受け付けています。また、12日の午後には参加無料の市民公開講座「在宅医療推進フォーラムin大阪・兵庫」も同じホテル内で行われます。

——今大会の特徴は

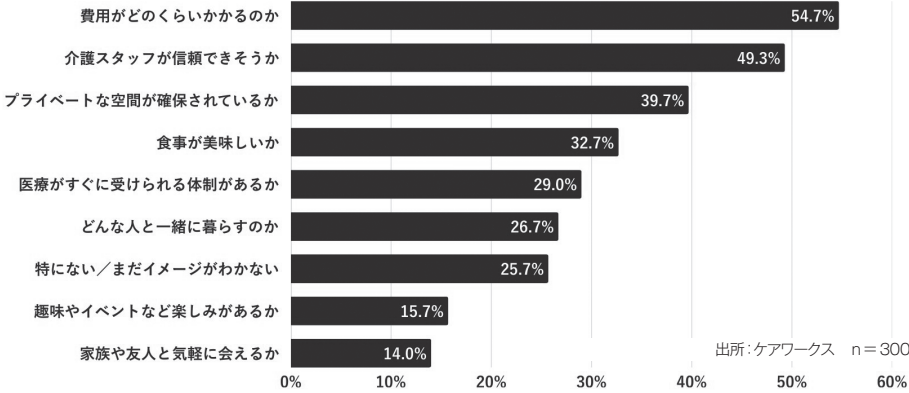
豊國 昨年、いわゆる「ホスピス住宅」の不正請求問題があり在宅医療や訪問看護のあり方が大きく問われました。それを受け、単に「ホスピス、在宅医療は素晴らしい」とアピールするだけでなく、その「影」の部分にもスポットを当て、今後のあるべき姿を考えるセッションも設けました。

老人ホーム「高額」の印象 30代〜50代対象に調査

ケアワークス

将来、もし自分が老人ホームに入るとしたら、どんなことが気になりますか？

※複数回答



介護人材求人サイトのケアワークス(運営: シックスワン/東京都杉並区)は8月21日、全国の30代〜50代の人

6割が「情報を得たことない」

老人ホームへの入居については「早めに入りたい」「必要になったら入りたい」の合計で27・7%となっている。

「老人ホームに対するイメージ」(複数回答)の結果は「費用が

を対象に実施した老人ホームのイメージや入居意識に関するアンケート調査の結果を発表した。

自身の理想の老後の暮らし方では「できる限り自宅で暮らしたい」が40・3%。「わ

がどれくらいかかるのか」をはじめ、上記グラフと同じ順位となった。ただし、年代別の回答では年齢が高くなるほど費用面を気に掛ける割合が多くなっている。

「老人ホームに関する情報を見聞きしたことがあるか」では「全

くない」「ほとんどない」の合計が59・4%で、「よくある」「たまにある」の40・6%を上回った。

また「老人ホームについて、今後もっと情報を得たいと思うか」では、「わからない」

調査は8月上旬に実施。30代・40代・50代各100人ずつから回答を得た。